

# 2020(令和2)年度事業報告

(2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日)

2020(令和2)年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、必要に応じて実施方法をオンラインに変更して各事業に取り組んだが、その副次的効果として新たな参加者の獲得や経費の削減などが見られた。

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針1 多文化共生による地域づくりを推進します。

互いの文化の違い等を理解し対等な関係で尊重し合い、共に生きる地域社会の実現を目指します。外国出身県民を含めた県民誰もが住みやすいと感じ、その能力を生かして地域社会の一員として活躍できる環境を整備します。

## 【数値目標】外国出身のサポーター※の延べ活動人数

(単位：人)

項目	令和2年度 目標	令和2年度 実績(達成率)
延べ活動人数	120	10(8.3%)

※数値目標は、当協会第5期運営基本計画(平成28年度～平成32年度)に基づく。

※「サポーター」とは、人材バンク制度及びボランティア登録制度の登録者

## 【事業実績】

### 1 異文化理解および国際交流の機会を提供する事業

#### (1) 国際理解出張講座(多文化共生編)

県内の公民館主催事業の地域住民を対象とした講座として、世界の食文化の多様性をテーマとした講座を実施した。(児童生徒等を対象とする講座については、後述の「国際理解出張講座(グローバル人材編)」に記載。)

○参加者：15人(前年度実績 80人)

○講座名と実施回数

	講座名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	
B	異文化コミュニケーションで大切なこと	
C	地球の食卓	1
D	世界がもし100人の村だったら	
E	食卓からのぞいてみよう イスラム文化	

F	これってアリ？	
G	貿易ゲーム	
H	新しい惑星の旅	
I	シータちゃんの日	
J	魚獲りゲーム	
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	

合計 1 回（前年度実績 4 回）

なお、3 月は WEB 版国際理解講座として「オディと FB で世界を旅しよう」を 4 回 WEB 配信した。

## (2) グローバルコミュニティカフェ

外国語による会話を通じて、外国の言語や社会、文化等に関する理解を深めるため、講師として外国出身の多文化共生・国際交流人材バンク登録者等を活用し、気軽に外国語に触れる機会を当協会にて定期的に提供した。

### ア グローバルコミュニケーションコース

外国出身の講師を迎え、講師の国で話されている言葉に触れながら、その国の文化を理解するコースを開催した。なお、11 月は会津喜多方国際交流協会と 2 月は南相馬市国際交流協会と共催で実施した。

- 実施回数：2 回（11 月は対面、2 月はオンライン）
- 参加者：のべ 17 人（うち外国出身者 1 人）（前年度実績 50 人〈8 人〉）
- 講師の出身国：バルバドス、ベラルーシ

### イ 英語コミュニケーションコース

あらかじめ設定した様々なテーマについて、英語でフリーディスカッションを行いながら、ゲストスピーカーの国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：15 回（内、9 回はオンライン）
- 参加者：のべ 110 人（うち外国出身者 5 人）（前年度実績 175 人〈5 人〉）

なお 4 月から 6 月までは WEB 版 GCcafe として「GOOD NEWS STORIES from Canada」を 4 回 WEB 配信した。

### ウ GC Café for Kids

福島県立図書館と協働し、外国の絵本を読んだり講師の母国の話を聞いたりすることで、子どもたちが世界の言語や文化に触れるおはなし会を開催した。

- 実施回数：1回（12月）
- 参加者：12人（うち外国出身者0人）（前年度実績 22人（0人））
- 講師の出身国：カナダ、スイス

### (3) 国際交流広報紙「ジャイロ」の発行

県民の国際交流への興味関心をより一層高めるため、県内の国際交流等に関する様々な取組や情報をタイムリーなテーマで特集した国際交流広報紙「ジャイロ」を発行し、公共施設等を通じて県民に広く配付した。

- 発行月：8月、2月
- 発行部数：各5,000部
- 仕様：A4判8ページ、両面フルカラー
- テーマ国：台湾（8月号）、ドイツ（2月号）
- 内容：Interview with Foreigners、世界を歩こう！、海外グルメ事情、福島県国際交流協会の事業案内など
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、エスニック料理店他

## 2 多言語による対応を推進する事業

### (1) 多言語による相談対応事業《県委託事業》

#### ア 外国人住民のための相談窓口

中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語は毎週木曜日10:00～14:00（第4・第5木曜日は予約制）に通訳員による行政サービスや在留資格など外国人住民に関わる各種問合せに対応した。

また、外部通訳サービスを利用し、中国語、英語、タイ語、ネパール語、インドネシア語、スペイン語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語の計11か国語で対応できる体制を整えた。

- 相談件数：530件（前年度実績 544件）
- トリオフォン（三者通話電話）利用件数：44件（前年度実績 46件）
- 相談言語別 (件)

言語	中国語	日本語	英語	タガログ語	ポルトガル語	韓国語	ベトナム語	スペイン語	合計
件数 (前年度実績)	350 (312)	138 (180)	23 (27)	11 (16)	2 (3)	1 (2)	1 (4)	4 (0)	530 (544)

## イ 外国人住民のための電話による専門相談会

弁護士による法律相談会（募集期間：10月27日～11月17日、1月5日～26日）と行政書士による行政手続きに関する相談会（同：11月10日～12月1日、2月2日～24日）を開催した。

- 相談件数：法律相談会1件、行政手続きに関する相談会0件

## ウ 相談窓口ニューズレターの発行

在留外国人統計や相談窓口紹介等を掲載したニューズレターを作成し、県内の行政機関等に配付することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

- 発行月：7月、2月
- 発行部数：各200部（前年度実績 各300部）
- 仕様：A4判2ページ、両面白黒
- 内容：平成31年度相談窓口状況報告、在留外国人統計、福島県内外国人労働者数、トリオフォンを使った無料通訳サービス及び外国出身者のための相談窓口の紹介など
- 配付先：県内の市町村住民関係窓口及び国際交流担当部署、保健福祉事務所、児童相談所など

## エ 相談窓口広報用カードの作成

相談窓口の広報を図るためのカードを作成し、県内の市町村住民関係窓口及び日本語教室などに配付した。

- 発行部数：5,000部

## (2) 多言語による情報提供事業

外国人住民の本県での暮らしをサポートするため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの3つの媒体を活用し、やさしい日本語、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語で地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：153件（前年度実績 122件）
- 多言語発信回数：719回（前年度実績 568回）
- 言語別内訳 (件)

言語名	やさしい日本語	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	ベトナム語	合計
回数 (前年度実績)	153 (0)	151 (133)	135 (102)	99 (84)	61 (85)	63 (83)	57 (81)	719 (568)

### 3 日本語によるコミュニケーションを支援する事業

#### (1) 「やさしい日本語」に関する啓発

外国人住民に対する日本語による情報提供や日本語によるコミュニケーションを円滑に推進するため、当協会職員による「やさしい日本語」の研修会を実施した。

- 実施回数：6回(前年度実績 9回)
- 講師：幕田順子(当協会)
- 参加者：63人(前年度実績 403人)

#### (2) 日本語学習機会拡充事業《県委託事業》

##### ア 外国人住民の日本語学習を応援する人向けの「日本語の教え方基礎講座」

- 期間：10月16日(金)～12月16日(水) 19:00～21:00 計10回
- 場所：オンライン
- 参加者：日本語教育の初心者 のべ640人
- 内容：福島県の外国人住民の現状と課題、外国語としての日本語、私の日本語教育の活動プラン など
- 講師：中川祐治氏(福島大学准教授)、井本亮氏(福島大学教授)、南浦涼介氏(東京学芸大学准教授) 他

##### イ 日本語の教え方スキルアップ講座

- 日時：11月7日(土)、11月15日(日)、11月27日(日) 13:00～16:00
- 場所：1回目及び2回目はオンライン、3回目は会津若松市生涯学習総合センター(会津稽古堂)
- 参加者：日本語教育の実践者 のべ44人
- 内容：他者から学ぶ日本語の「教え」方 他
- 講師：吉田環氏(公財)宮城県国際化協会日本語講座講師) 他

##### ウ トライアル日本語講座

日本語教室の有効性を知ってもらうためにトライアル講座として、日本語講座を実施した。

###### (ア) 国見町

- 日時：12月1日(火)、12月8日(火)、12月15日(火) 18:45～20:30
- 場所：観月台文化センター
- 参加者：学習者10人、サポーター11人
- 内容：自己紹介、共通点を探すなど
- 講師：日下部喜美子氏(蓬莱日本語教室)、佐々木千賀子氏(同左)

(イ) 神田産業

- 日 時： 1月9日(土)、1月23日(土) 13:30~15:00
- 場 所： ZOOM
- 参加者： 学習者8人、サポーター8人
- 内 容： 自己紹介、会社の人に聞いてみようなど
- 講 師： 永島恭子氏（(一社)ふくしま多言語フォーラム）

#### 4 多文化共生による地域づくりを担う人材を育成・活用する事業

##### (1) 多文化共生・国際交流人材バンク制度

多文化共生による地域づくり及び国際交流活動を推進するため、「多文化共生・国際交流人材バンク制度」に登録してもらうとともに、多様な主体からの紹介の依頼に応じ、登録者に活動の機会を提供した。

##### ア 登録者

○ 人数：206人（うち外国出身者数 69人）（前年度実績 191人（67人））

○ 出身国別内訳 (人)

出身国	日本	中国	フィリピン	タイ	韓国・朝鮮	台湾	その他※	計
人数 (前年度実績)	137 (124)	28 (27)	6 (6)	8 (8)	4 (4)	3 (3)	20 (19)	206 (191)

※ オーストラリア(2人)、ニュージーランド(2人)、インドネシア(2人)、モンゴル(2人)、ネパール(2人)、ブラジル、ルワンダ、ベトナム、スリランカ、エジプト、パキスタン、パラグアイ(アルゼンチン)、バルバドス、スイス、アメリカ 各1人

##### イ コーディネート総数

24件、活動者数 28人（うち外国出身者 10人）（前年度実績 63件、101人（49人））

(ア) 公的団体等からの依頼

- 件数：5件（前年度実績 23件）
- 活動人数：8人（うち外国出身者 6人）（前年度実績 48人（30人））

(イ) 当協会主催事業への協力

- 件数：3件（前年度実績 12件）
- 活動人数：3人（うち外国出身者 3人）（前年度実績 20人（16人））

(ウ) 外国の子どもの学校生活への適応支援

外国の子どもが学校生活に適応できるようにするために、初期の日本語指導ができるサポーターを紹介した。

a 日本語指導

- 件数：14 件（前年度実績 28 件）
- 活動人数：15 人（うち外国出身者 0 人）（前年度実績 33 人（3 人））

b 通訳

- 件数：2 件（前年度実績 0 件）
- 活動人数：2 人（うち外国出身者 1 人）（前年度実績 0 人（0 人））

**ウ 語学人材スキルアップ研修会**

多文化共生・国際交流人材バンク制度の「語学人材」登録者や登録に関心のある方を対象に、モチベーションの維持と資質向上のため研修会を開催した。なお、今年度は中国語とし、午前の部（10：00～12：00）は初心者向けの入門編、午後の部（13：30～15：30）は中級者向けの実践編とした。

- 日 時：12 月 5 日（土）10：00～15：30
- 場 所：当協会
- 講 師：何 敏氏（福島大学国際交流センター 副センター長）
- 参加者：入門編 9 人（うち外国出身者 3 人）、実践編 8 人（うち外国出身者 5 人）

**エ 外国の子ども支援人材養成講座**

日本語がわからない外国の子どもが学校生活に適応できるよう日本語又は母語による支援を行う多文化共生・国際交流人材バンク制度の「外国の子ども支援人材」の養成講座を行った。

- 日 時：10 月 14 日（水）14：00～16：00
- 場 所：当協会
- 講 師：日下部喜美子氏（蓬莱日本語教室代表）
- 参加者：5 人（前年度実績 のべ 47 人）

**(2) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度（ホストファミリー・語学）**

県民のボランティア活動への参加により、外国人住民が暮らしやすい環境づくりと国際交流活動を促進するため、登録者を広く募集し、多様な主体からの依頼に応じる体制を整備した。

## ア 登録者

○ 人数：131人（うち外国出身者数34人）（前年度実績 123人（33人））

○ 出身国別内訳 (人)

出身国	日本	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	ブラジル	その他※	計
人数 (前年度実績)	97 (90)	17 (17)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	11 (10)	131 (123)

※ オーストラリア、カンボジア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、台湾、ニュージーランド 各1人

## イ コーディネート総数

実績なし（前年度実績 実績なし）

## 5 外国出身の子どもの学校生活への早期適応を支援する事業

### (1) 外国出身の子どもの支援と関係機関との連携強化

#### ア ふくしま外国の子どもサポートセンターの運営

平成26年度に設置した「ふくしま外国の子どもサポートセンター」を引き続き運営し、外国出身の子どもの支援するための相談対応、情報提供、日本語テキスト等の教材の貸出し等を行った。

○ 相談件数：8件（前年度実績 23件）

#### イ 外国籍児童生徒等関係者会議

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

### (2) 帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業《再掲》

日本語がわからない外国の子どもの学校生活への適応に関わる日本語指導などのサポーター活動について、サポーターの派遣又は紹介、児童生徒等の支援に関する相談対応、成果の検証等を行う「帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」を実施した。

○ 紹介件数：14件（前年度実績 26件）

○ 派遣件数：2件（前年度実績 2件）



## 6 外国出身県民の災害対応を支援する事業

### (1) 災害時外国出身県民等支援ボランティア登録制度

被災地等において、外国人住民等に対し、通訳・翻訳による情報収集、提供等を行う災害時外国出身県民等支援ボランティアの登録者を広く募集登録を行った。

#### ア 登録者

○ 人数：96人（うち外国出身者数 32人）（前年度実績 91人（31人））

○ 出身国内訳

出身国	日本	中国	フィリピン	ブラジル	韓国	その他*	合計(人)
人数 (前年度実績)	68 (64)	13 (13)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	9 (8)	96 (91)

※ オーストラリア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、ネパール、パキスタン、台湾、ニュージーランド 各1人

### イ 災害時外国出身県民等支援ボランティア研修会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

### (2) 外国人のための防災講座

防災講座等を県内2か所で実施した。

## 7 外国出身者コミュニティの活動を支援する事業

### (1) 外国出身者コミュニティ活動支援事業

県内に潜在しているコミュニティの発掘を継続して行った。また、既存の外国出身者コミュニティに対しては、そのコミュニティが主催事業等を行う際の事業企画や関係機関との橋渡しなど事業実施に向けたサポートを行った。

#### 【基本方針及び目標】

#### 基本方針2 多様な主体とともに国際交流・国際協力活動を推進します。

県、市町村、公益法人、NPO等様々な主体と密に情報共有を行い、ネットワークを構築します。さらに、各主体と連携・協働して、様々な国際交流・国際協力活動を効果的に行います。

【数値目標】 多様な主体からの国際交流・国際協力活動に関わる相談件数

(単位：件)

項目	令和2年度 目標	令和2年度 実績（達成率）
相談件数	300	30（10.0%）

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

【事業実績】

1 多様な主体が行う国際交流・国際協力活動を支援する事業

(1) 国際交流・国際協力活動への助成事業

福島県内に所在する非営利の民間団体が行う本県の国際交流・協力活動の進展に寄与する活動、国際交流活動を通じた本県の復興活動又は本県の復旧・復興の現状を外国語で国内外に発信する情報発信活動に関する助成事業の公募を行ったが、応募がなかった。

○ 募集期間：6月15日～12月23日

(2) 国際交流・国際協力活動に関する相談対応事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する相談に対応し、人の紹介、ノウハウの提供等を行った。

○ 相談件数：30件（前年度実績 116件）

(3) 国際交流・国際協力活動に関する情報提供等支援事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、SNSを通じて広く県民に対し発信した。県民への情報提供を行った。

媒体	登録者数	発信回数
フェイスブック (前年度実績)	(フォロワー数) 1,211人 (1,055人)	166件 (121件)
ツイッター (前年度実績)	(フォロワー数) 228人 (154人)	152件 (214件)

(4) 国際交流・協力団体ダイレクトリーの発行

県内の国際交流・協力団体の活動状況を調査し、国際交流・協力活動に参加したい県民に対し、団体の連絡先、目的、活動内容等の基本情報をホームページに掲載した。

○ 照会時期：9月

○ 登録団体数：110団体（前年度実績 114団体）

(5) 国際交流・国際協力活動を行う団体等に対する外部研修会への推薦

関係団体に案内はしたものの、推薦依頼がなかった。

**2 多様な主体との多角的なネットワークを構築する事業**

(1) 市町村国際交流協会等ネットワーク事業

**ア 令和2年度第1回外国人住民生活支援に係るネットワーク会議**

福島県国際課と共催で、県内の市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当職員を対象に、当協会職員による「やさしい日本語」に関する講話と、今年度実施する事業についての説明及び意見交換等を県内3会場で行った。

<浜通り会場>

- 日 時 : 8月27日(木) 14:00~15:30
- 場 所 : 檜葉町コミュニティセンター
- 参加者 : 市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 5団体(6人)

<中通り会場>

- 日 時 : 9月2日(水) 10:00~11:30
- 場 所 : 福島県農業総合センター
- 参加者 : 市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 12団体(15人)

<会津会場>

- 日 時 : 9月2日(水) 14:00~15:30
- 場 所 : 福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
- 参加者 : 市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 8団体(9人)

**イ 令和2年度日本語教室ネットワーク会議**

県内の日本語教室からの代表者が一同に会し、新型コロナウイルス感染症拡大下での日本語教室の活動状況について情報共有した。

- 日 時 : 10月3日(土) 13:30~15:30
- 場 所 : コラッセふくしま 小研修室
- 参加者 : 14団体(16人) (前年度実績 18団体(27人))

(2) 市町村国際交流協会等への情報提供

- 回 数 : 12回
- 内 容 : 新型コロナウイルス感染症関連情報、災害情報の多言語化、オンラインセミナー等開催情報、当協会事業案内など

(3) 多様な主体が行う事業への出席等

ア フェスティバル等への出展

- 出展数：1 件（前年度実績 2 件）
- フェスティバル名：結・ゆい・フェスタ 2020（福島市国際交流協会主催）

イ 総会等への出席

実績なし（前年度実績 15 件）

【基本方針及び目標】

基本方針3 グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

次世代を担う若い世代や人材育成を行う指導者等を対象に、幅広い知識や能力を習得する機会を提供し、グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材を育成します。

【数値目標】 県内のグローバル化を先導する人材の累積育成数

(単位：人)

項目	令和2年度 目標	令和2年度 実績（達成率）
累積育成数	150	165（110.0%）

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

【事業実績】

1 次世代を担う人材を育成する事業

(1) 国際理解出張講座（グローバル人材編）

若い世代に対し、環境や貧困など世界規模の課題や、様々な価値観を持つ人々とのコミュニケーション、異文化適応等について学ぶ機会を提供するため、県内の学校等に出向いて参加型の講座を実施した。

- 参加者：577 人（前年度実績 2,144 人）
- 講座名と実施回数

	講座名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	
B	異文化コミュニケーションで大切なこと	
C	地球の食卓	1
D	世界がもし100人の村だったら	5

E	食卓からのぞいてみよう イスラム文化	
F	これってアリ？	6
G	貿易ゲーム	
H	新しい惑星の旅	5
I	シータちゃんの日	
J	魚獲りゲーム	
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	

合計 17 回（前年度実績 25 回）

(2) ふくしまグローバルセミナー2020

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

(3) 次世代の海外研修への助成事業

新型コロナウイルス感染症の拡大状況から公募を中止した。

2 県内のグローバル化を先導する人材を育成する事業

(1) ふくしまグローバル人材育成指導者研修会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

【基本方針及び目標】

基本方針 4 海外での風評の払拭に向けて、福島現状を正確に伝えます。

特に海外で根強い風評を払拭するため、あらゆる機会をとらえて正確な情報を継続して発信するとともに、海外からの視察等を積極的に受け入れます。

【数値目標】 風評払拭に向けた多言語による情報発信回数

(単位：回)

項 目	令和 2 年度 目標	令和 2 年度 実績（達成率）
情報発信回数	600	719 (119.8%)

※ 【数値目標】は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

## 【事業実績】

### 1 海外での風評払拭に向けて本県の現状を多言語で発信する事業

#### (1) 多言語による福島の実況の発信事業

震災復興に向けた取組や県民の声などの本県の現状を、7つの言語（日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語）でWEB発行し、広く世界に発信した。また、3つの言語（日本語、英語、中国語）でニューズレター（紙媒体）を発行し、県内外の関係機関（者）に情報を発信した。

#### ア 多言語による情報発信《再掲》

外国人住民の本県での暮らしをサポートするため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの3つの媒体を活用し、やさしい日本語、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語で地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：153件（前年度実績 122件）
- 多言語発信回数：719回（前年度実績 568回）
- 言語別内訳

（件）

言語名	やさしい日本語	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	ベトナム語	合計
回数 （前年度実績）	153 (0)	151 (133)	135 (102)	99 (84)	61 (85)	63 (83)	57 (81)	719 (568)

#### イ 「Fukushima NOW」の発行

これまでの震災復興に向けた取組や本県に暮らす外国人住民の声などの本県の現状を掲載した拡大版のニューズレターを発行した。

- 発行月：8月、12月、2月
- 発行部数：日本語（1,000部）、中国語（1,000部）、英語（1,000部）
- 仕様：A4判両面フルカラー
- 内容：福島県の復興と再生のあゆみ、外国人住民からのコメント等
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体等

## 2 海外からの視察に対応する事業

### (1) 海外からの視察コーディネート事業

国内外の多様な主体が主催する海外からの本県の視察交流について、コーディネートを行うための情報収集を行った。

## その他

### (1) 関係機関への講師や委員等への派遣

関係機関が主催する各種会議の委員等として、当協会職員を派遣した。

○ 件数：4件（前年度実績5件）

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針5 財源の確保に努め、健全な運営基盤の確立を図ります。

当協会の運営の基本となる財源確保、効率的な予算執行及び業務運営の不断の見直し、職員の資質の向上等に努めます。

## 【事業実績】

### 1 財源

効率的な予算執行及び財源の確保に努めた結果、特定資産取崩額が当協会第5期運営基本計画の収支計画額以下となった。基金の運用については、安全性を重視しながら引き続き運用益の確保に努めた。

### (1) 収支計画実績

(単位：万円)

	平成32年度実績(a)	平成32年度計画額(b)	差額(a-b)
運用益収入	1,147	1,194	△47
事業収入等 <sup>※1</sup>	240	425	△185
県補助金等 <sup>※2</sup>	3,155	2,292	863
外部資金 <sup>※3</sup>	0	200	△200
収入合計(A)	4,542	4,111	431
事業費	3,915	3,800	115
管理費	849	859	△10
支出合計(B)	4,764	4,659	105
収支(A-B)	△222	△548	△326
特定資産取崩	312	350	△38

※1 受取会費、受取寄附金、受取負担金、雑収益 ※2 県補助金、県受託金 ※3 民間助成金、民間受託金

### (2) 寄附金

- 件数：3件（前年度実績 2件）
- 金額：1,030,000円（前年度実績 1,020,000円）

### (3) 賛助会費

- 件数：個人会員 107人（うち新規 10人）、（前年度実績 117人（8人））  
団体会員 61件（うち新規 1件）、（前年度実績 67件（1件））
- 金額：995,000円（前年度実績 1,126,000円）